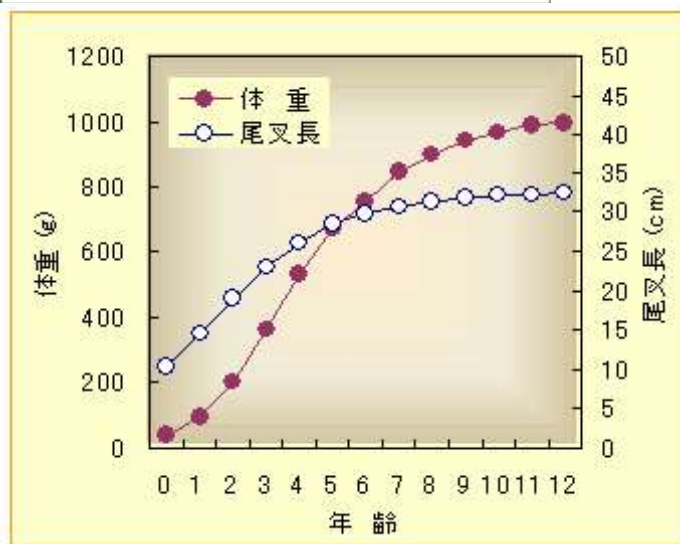


キダイ *Dentex tumifrons*
日本海西・東シナ海系群 担当：西海区水産研究所



生物学特性

寿命：	8歳以上
成熟開始年齢：	1.5～2歳
産卵期・産卵場：	産卵期は春と秋の年2回 産卵のための接岸、深淺移動は認められず、分布域内（五島西沖～済州島、沖縄北西の大陸棚縁辺、台湾北東の大陸棚縁辺、浙江、福建近海）で産卵する
索餌期・索餌場：	大規模な回遊はなく、夏季は浅みに、冬季は深みにという深淺移動を行う程度
食性：	主たる餌料生物は甲殻類
捕食者：	不明



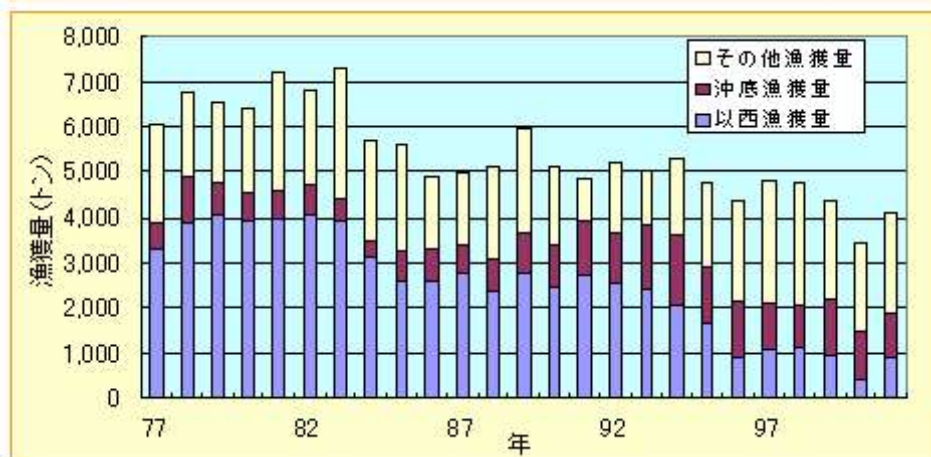
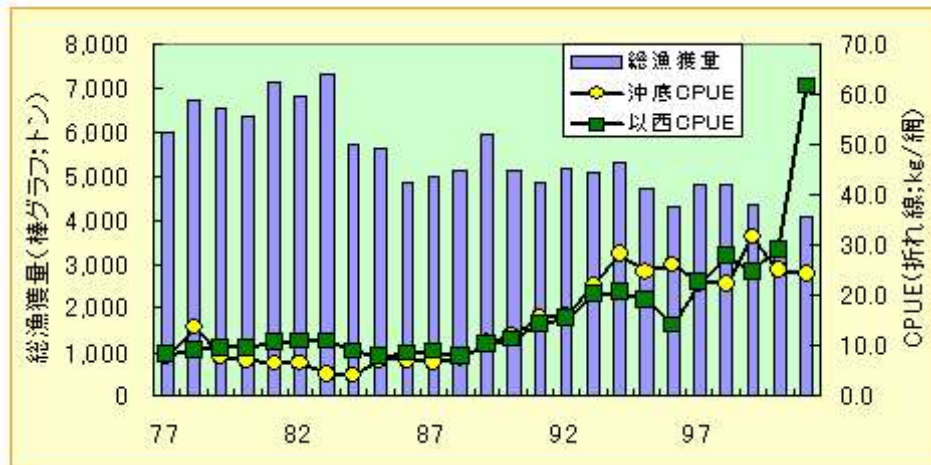
漁業の特徴

日本海西区（山口県から福井県）における本種の漁獲の主体は沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業であり、2そうびき沖合底びき網漁業が約半分を占める。県別でみると、山口・島根の両県で日本海西区における本種の漁獲の9割近くを占める。漁場の多くは日本海の西部海域であり、沖底、小底ともに秋から冬にかけてが盛漁期である。

東シナ海区における本種の漁獲の主体は以西底びき網漁業であり、1986年には東シナ海区における本種の漁獲量のうち約8割が以西底びき網漁業によるものであったが、2000年には約4分の1を占めるにとどまっている。近年では主に九州西岸で漁獲されている。このほかにも釣り・はえ縄等によって漁獲されている。中国・韓国でも漁獲されている。

漁獲の動向

漁獲量は日本海西部から東シナ海において1977年代後半から1980年代前半にかけて6000トンを超える漁獲があったが、その後減少し、近年では4000トン前後の漁獲量に止まっている。2そうびき沖合底びき網漁業では1990年に入ってから1000トン前後の漁獲があるが、2そうびき以西底びき網漁業では近年の漁船隻数の減少に伴い、漁獲量が減少している。



資源評価法

単一の漁業種類としては日本海西部では2そうびき沖合底びき網漁業、東シナ海では2そうびき以西底びき網漁業がキダイ漁獲量のうち大きな割合を占める。このため、沖合底びき網漁業および以西底びき網漁業の漁獲成績報告書に基づく漁獲統計を用いて資源評価を行った。沖合底びき網漁業、以西底びき網漁業ともに漁船隻数の減少が見られることから、CPUE（単位努力量あたり漁獲量）の動向から資源状態を判断した。

資源状態

2そうびき沖合底びき網漁業では1997年までCPUEは増加傾向にあり、1998年以降は減少傾向に転じたが、最近20年間でみると高い水準にある。一方、2そうびき以西底びき網漁業のCPUEは1996年に下がったものの、その後増加傾向にある。また、沖合底びき網漁業と以西底びき網漁業以外の漁業によるキダイ漁獲量は比較的安定している。これらの漁獲動向からキダイ資源の資源状態の悪化はうかがえず、過去20年間では高い水準にあるとみられる。それ以前との比較は難しいが、第二次世界大戦直後には東シナ海で2万トンを超える漁獲があったとされ、当時の資源水準と比べると現在の資源水準はかなり低いと推察されるので、水準は中位と判断した。



管理方策

キダイ日本海西・東シナ海系群の資源水準は中位で、資源動向は横ばいであるとみられたが、日本海西部で操業する沖合底びき網漁業ではCPUEの減少傾向がみられることから、漁獲量を減らして近年高い水準だった1997年から1999年程度の水準に回復するこ

とを目標とした。平均漁獲量とその変化率を考慮した0.85、また安全率を考慮した0.8を用いてABCを算定した。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	Cave X0.85	3,300	—	—
A B C target	ABClimit X 0.8	2,600	—	—

資源評価のまとめ

- 2そうびき沖合底びき網漁業のCPUEでは1997年以降若干の減少傾向が見られるが、高い水準を保っている
- 2そうびき以西底びき網漁業ではCPUEは増加傾向にある
- その他の漁業による漁獲量は比較的安定しており、大きな増減は見られない

管理方策のまとめ

- 漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止めをかける
- 管理目標は、近年高い水準であった1997～1999年の資源水準に回復させること
- 韓国・中国を含めた共同管理が必要